


平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I II V 】
2 実施対象者	学校名 習志野市立第七中学校 対象学年 全校生徒 人数 本校生徒 426人 本校職員 45人 学区小学6年生 200人 保護者及び地域 60人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習) ② 行事名 (学区合同ミニ集会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	次世代を担う子どもたちに国際感覚やスポーツの楽しさ、ボランティア精神、障がい者への理解等を身につけさせる。
5 取組内容	 <p>講師として元オリンピック選手、高平慎士さんをお迎えし第1部は「オリンピックを経験して ～若者へのメッセージ～」、第2部は「選手を受け入れる地域のおもてなし」をテーマに講演会を、第3部は第2部に引き続き同テーマでグループディスカッションを行った。高平さんは北京オリンピックの4×100mリレーで銅メダルを獲得し、今年選手としては引退したが、現在も富士通陸上競技部に所属している。スポーツを通しての人間教育（フェアプレイ、公正、リスペクト等）やオリンピック・パラリンピックの歴史を学んだ。また、オリンピック・パラリンピックで行われる競技種目についての学習も行った。</p>

<p>6 主な成果</p>	<div data-bbox="448 203 922 557" data-label="Image"> </div> <p>第2部では、「選手を受け入れる地域のおもてなし」について、自身の経験をもとに話をいただき、地域の方との交流を深めた。おもてなしのポイントは、2つ。まず選手自身が「自分たちはこの町に迎えられているな」と感じられることをする。次に文化の違いが必ずあるので、まずは「その国を理解しようとする姿勢」、「自分たちの町の魅力を打ち出す」ことが大切だ、と力説されていた。</p> <p>第3部のグループディスカッションは10のグループに分かれ、活発な意見交換が行われた。いくつかを紹介すると、「来日者に学校での学びを紹介する」、「日本文化の触れる機会を設ける」、「練習場でのボランティアガイド」、「福祉教育推進校の経験を生かしたパラリンピックの支援」、「国際水泳場、新習志野駅前での地元祭りやイベント実施」、「選手団の母国語を学ぶ」、「トイレのサイズの適正化」、「選手にコーチングスクール依頼」、「多言語で応対」、「学区で交流の場を設ける」、「ユニバーサルデザインの推進」など。</p> <div data-bbox="895 689 1369 1043" data-label="Image"> </div> <p>この集会の成果として、学校、家庭及び地域が協力し合う場となったこと。地域住民との交流が教職員の視野を広げる契機となったこと。何よりも、オリンピック・パラリンピックに向け、教職員や生徒、地域住民一人ひとりが観戦者としてだけでなく運営メンバーの一員にもなりえることを期待させられた。</p> <div data-bbox="448 1223 922 1576" data-label="Image"> </div>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>「学校を核とした1000か所ミニ集会」として企画運営したため、生徒や教職員だけでなく、保護者や地域の方も参加することができた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>生徒にとっては話を聞くだけの活動になってしまった。デモンストレーションを見たり、生徒が参加・体験できるようなプログラムを考えていきたい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>パラリンピック競技についての学習を、総合的な学習や保健体育の授業でも取り上げたい。</p>

